

プ月 5月 パル 市況 イリムがNを値下げ ザーの抵抗で総じて弱含み

(東京通信) 五月の国際パルプ市況は弱含み模様となった。北米、欧州、中国の市場で三月積み、四月積みと値上げアナウンスが相次いだ。四月はユーザー側の大きな抵抗を受け、中国では再販売価格が値下がりをした。

年が明けてからの底打ちと反発は主にNBKPが主導してきたが、五月積みは中国向けのアラウコおよびイリムが据え置きにとどまり、ユーカリを中心とするLBKPに値上げのアナウンスが集中していた。

五月に入ってイリムが一転、NBKPのトン当たり五〇ポンドの値下げを発表しNBKPの先安感が強くなった。LBKPは多くのメーカーが五月積みの値上げを発表したが、四月積み以上の反発が予想される。

新興エンジニヤがドクター装置の受注好調

(静岡通信) 紙・パルプ機械設計製作、メンテナンスの新興エンジニヤ(株)(富士市石坂九五、小野秀樹社長)は、製紙・製鉄向けのドクター装置の受注が好調だ。富士地区の家庭紙メーカーには納入済みで現在順調に稼働している。西日本の製鉄会社数社からも受注している。

金属下地での新規防火認定を取得

(東京通信) リンテックグループは、デジタルプリント屋外・屋内用粘着シート『ウォルコスOD』、内装用高級装飾シート『パロア』などの屋外サイン・内装仕上げ材で、新規防火認定を

取得した。カラーアルミ、アルミニウム合金板、両面合成樹脂塗装鋼板の金属下地三種に対するもの。これら下地は取得済み防火認定(不燃材料)で網羅できなかったため、運用開始は六月一日。

興陽製紙の新役員陣容

(静岡通信) 高級特殊板紙および家庭紙製造の興陽製紙(株)(富士市比奈四五〇、尾藤秀士社長)は、十四日開催の定時株主総会および取締役会で次の役員新陣容を決めた。敬称略。

▽代表取締役社長尾藤秀士▽取締役工場長熱海裕、総務部長国近敦▽非常勤監査役東藤芳臣。

美濃和紙の里会館で7月16日まで「全国和紙見本市」

(中京通信) 美濃和紙の里会館(岐阜県美濃市蔵生一八五一―三)は全国和紙見本市を開催している。全国二八の和紙の産地から約二〇〇種の和紙と一六〇種類の和紙製品を一堂に集めた。会場には一三六種の和紙を天井から吊るし、観て、触れて感じてもらうような回廊を設置した。中には国の重要文化財の石州和紙や細川紙、本美濃紙、光る和紙、玉ねぎを漉き込んだ和紙、バガスを漉き込んだ紙なども展示されている。

富山県和紙協同組合や西嶋和紙工業協同組合(山梨)、大豊和紙工業(三重)、石州和紙会館(島根)、阿波手漉和紙商工業組合(徳島)、高知手すき和紙協同組合など二八の産地や企業が協力している。七月十六日まで。

ティーゴルフ大会での募金も寄贈した。

四国紙バ研が技術ニュース発行

◇：(四国通信) 四国紙パルプ研究協議会(鮫島一彦会長)はこのほど、『四国紙バ研技術ニュース第三八巻第一号』(B5判三六頁)を発行した。今年三月に高知県立紙産業技術センター研修室で行われた平成二十三年度第二回目的講演会要旨や日刊紙業通信などに掲載された四国地区のニュースを載せている。

ペーパーボイス大阪で「100% PAPER」展

◇：(大阪通信) 平和紙業大阪本店(大阪市中央区南船場二―三―二三)のペーパーボイス大阪で十四日まで、関西を中心に活動するペーパークラブアーティスト秋山美歩氏の個展「100% PAPER」が開催された。マンドリルやグリーンイグアナ、けだるげな表情の牛やペンギンなど一五点が来場者を楽しませた。

